

【新平の検疫事業Ⅱ】 ※まだ続く、新平の検疫取材

臨時休館解除：「3密対策配慮」

5月9日、臨時休館を解除しました。入館者も市内在住者限定から、県内、そして「特定警戒」や「感染拡大注意」圏以外の県外の方にも徐々に拡大してきました。今、地元学校団体等の入館が復活し始めました。

5月

5/4(月) 緊急事態宣言5月31日まで延長決定
 5/9(土) 後藤新平記念館臨時閉館解除
 5/14(木) 緊急事態宣言39県解除
全国3区分特定警戒 拡大注意 感染懸念
 緊急事態宣言関西3府県解除
 5/21(木) 厚生労働省発表資料
 5/21(木) 【国内】感染者16,251名；死者777名
緊急事態宣言1,529,968名；死者227,234名；死者326,512名
 緊急事態宣言1,529,968名；死者227,234名；死者326,512名
 5/25(月) 緊急事態宣言全面解除

5/15(金) 岩手日報取材(検疫関連)
 5/22(金) 読売新聞取材(検疫関連)
 5/22(金) 株式会社ユーコム(TV番組制作)取材



4月28日に東京MXテレビから取材を受けた番組が、5月1日に放映されました。4月からの2か月間で臨時陸軍検疫所を造り上げたその只中の5月5日、後藤事務官長が児玉部長に検疫従事者の給与待遇改善(戦地同様に)を上申した中に出てくる言葉、「その危険の恐るべきこと 弾丸よりも大なるものがある」を紹介していました。

また、4月9日から数度に亘って取材を受けたテレビ朝日の番組が、5月13日の朝、「池上彰ニュース検定」で放映されました。最後に、「危機に陥った際、リーダーには、国民の生命を最優先に守る決断力が求められる」と話した池上氏の言葉が印象的でした。

コロナ禍以降、急浮上した新生活様式の中の一つである「WEBシンポ」も、複数お声をかけていただいております。次回以降にご紹介できればと思います。

【今年度初の団体：水沢学苑看護専門学校 50名】



団体客は、2月6日(土)を最後に途絶えていましたが、5月22日(金)、水沢学苑看護専門学校の生徒と引率50名が来館しました。実に、3ヶ月以上を経た久々の団体客になりました。今年度としては初です。

全員マスク着用。2時間というゆとりの時間を確保いただき、2班に分け、隣の後藤伯公民館の第2ホールでの講話と記念館見学案内を実施しました。

様々な対策のもとで、既に対面授業をしている地元の看護専門学校の生徒さん達です。片道10分ほどを要して徒歩で来館しました。衛生を学ぶ学生が本年度最初の団体客というのも、後藤新平ならではの縁を感じました。

6月以降、地元小学生の予約が入り始めました。1クラスを3つに分け、スクールバスに乗り、高野長英と斎藤實・後藤新平の記念館を50分間毎に回る工夫をしているようです。やっと校外学習にも出始めることができるようになってきた学校。一日も早く通常の授業ができるようになることを願ってやみません。

【緊急特別企画展から】

当初、4月19日までとしておりましたが、当館自体の臨時休館やら、県境を跨いでの来館規制やらで、展示資料の公開の目的が十分に果たされなかったため、新型コロナの終息感が出るまで継続展示することとしました。

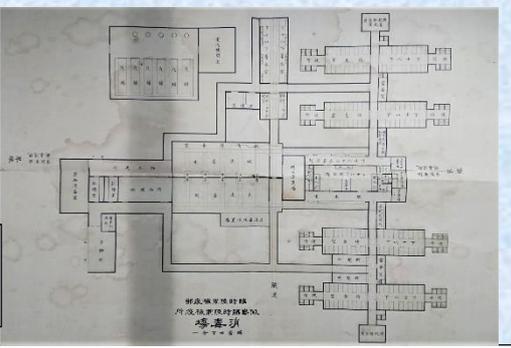
今回の資料は、「臨時陸軍検疫所消毒場案内」。表裏印刷したもので、帰還兵全員に配布できるよう25万枚を印刷したものです。たった一日で印刷できた経緯を「臨時陸軍検疫部日誌」は次のように書き記しています。

「出征軍人に配布すべき消毒場案内25万枚を要する見込を以て之か印刷を大坂朝日新聞社に依頼す、廣島其他関西に於て数十万枚の印刷を一日に為し得るもの大坂の朝日新聞社の外なく而して同社他の需に応じて印刷業を営まざる常規なれども雇員林茂香をして特に社長村山龍平氏に依頼せしむ、其急要の事情を悉し社長之を引受くるか為に其目的を達することを得たり」

この「臨時陸軍検疫部日誌」が極めて興味深いので、次ページに紹介します。これは、「臨時陸軍検疫部報告摘要」の中に収められているものです。



【臨時陸軍検疫所消毒場案内 5/15】



臨時陸軍検疫部日誌

4月28日には、写真1のように資材が積み重ねられた状態だった似島。たった2カ月で海を埋め、樹を切り払い、地ならしをし、計400棟ほどの建物を建て、諸道具一切を運び込み、電信、電話、電灯の設備を整え、大消毒缶を製造して備え付けるという破天荒な工事をし、5月31日には、写真2のように地域住民への縦覧を決行します。後藤新平の息遣いが感じられる4月～5月末までの日誌を紹介します。

写真1(4月28日の似島)



4月26日:部長(児玉源太郎)より陸軍大臣に検疫兵の派遣を申請す、即ち各師団より下士卒69人、上等兵930人、喇叭卒9人、以上1,117人(5月1日許可の指令あり)

5月4日:事務官長(後藤新平)より本部吉田事務官に検疫所開始準備の景況に付左の如く報告す「各検疫所は6月31日までに落成の計画なりしか工事を督促し5月30日迄期日短縮成功の見込漸く相立申候。」

5月9日:部長の名を以て陸軍大臣に各検疫所位置を似島彦島櫻島の三所とし開始期日を似島櫻島は6月1日、彦島は6月5日とすへき告示案を具し発布せられんことを上申す、事務官長は此告示案を部長に進達するに方り左の通見込を添申す「似島消毒場(宇品)開場来る6月1日人員の上陸消毒:1回を220~230人(軍隊の一個中隊)を一組とし2時間以内に着服消毒携帯品消毒入浴を完了し一昼夜には5,000人乃至6,000人(500人搭載したる船10艘乃至12艘)迄は消毒通過を為さしむることを得べき見込」

5月15日:部長は左の上申書を陸軍大臣に出せり。「伝染病患者ある船舶に於ても消毒施行後は直ちに解停せしめ乗組員のみ5日間停留せしめ後ち患者無之候ときは同停留所より帰らしめ度此段上申添候也」

5月19日:部長事務官長早朝馬関に向ふ午後5時着、彦島を巡視す。彦島検疫工場には再昨17日工夫3名虎列刺病を發するや場内一般大に恐怖して工夫悉く遁竄し部長等一行の巡視せる時は全く工事を中止し居れり其時混雑の状筆舌の盡すへき所にあらず、依って場内に於て濫りに飲食をすることを禁止し別に給食法を設け其他大に予防上の措置を為して工夫に安心を与へ漸く工事を継続することを得さしむ

5月20日:午前11時征討総督官殿下及部下一行を載せたる横濱丸馬関に入港消毒済の上午後6時出帆、大山第二軍司令官は長門丸にて午後5時入港せり

5月26日:医学博士北里柴三郎に各所消毒罐の試験を囑託せらる

5月27日:本月31日似島検疫所を衆庶の縦覧に供するを以て部長の名を以て留守第五師団県庁市役所宇品兵站部呉鎮守府其他関係ある向に案内状を發す、其数500通其案内状に添えたる優待券700枚又県庁市役所に依頼して參觀券1,200枚を配布せり

5月31日:似島検疫所は予期の如く午後2時より縦覧せしむ、先是去る27日案内状を發する際案内者に優待券を与へ普通參觀人には參觀券を配布し其參觀券を所持するものは午後2時前に宇品蛤雁木に參集せしめ優待券を所持する者は午後6時前に同所に參集せしむることとせり、而して……………

櫻島検疫所長は工事に多少備はらざる所あるを以て事務官に明日の開始を延引するの外なしと電報す、依って事務官長は工事に備はらざる所あるも消毒施行を為し得れば延引すへからざる旨を答ふ、所長より右の電報を發したる後、午前11時頃誤て電気灯の煙突を倒し瀧罐室の家根及蒸汽消毒罐に通する「パイプ」を破損せしめ瀧罐一個に外明日使用の間に合はざるに至れりとて所長は更に此有様にて明日開所すへきかと申来る、事務官長は瀧罐一個にても使用し得ば是非に開所すへき旨を答ふ、

※この報告をした櫻島検疫所長は1週間後…(6月以降は次号で)

写真2(5月31日の似島)

